



藤井 達也

「Aさんの夏休み」



長かった夏休みも終わり、秋学期がスタートしました。皆さんはどのように休みを過ごされたのでしょうか。ところで、図書館は8月13日～16日の間は休館日でしたが、それ以外は日曜日を除いて開館していたのをご存知でしたでしょうか？今回はある学生のアジア関係図書館（分館）での夏休みの一日をご紹介しますことにしましょう。

この学生を仮にAさんと呼ぶことにします。夏休みに入った初日、昨日までと同じようにAさんは開館とほぼ同時に「お早うございます！」と挨拶して、いつもお決まりの「指定席」に進みます。荷物を置くと新聞コーナーへ進み、読み始めました。新聞を読み終わると、今度はおもむろに鞆の中から勉強道具を取り出し、黙々と勉強を開始しました。

暫くするとカウンター横の蔵書検索端末に来て検索をし、必要事項を資料請求用紙に記入しました。それを持ってカウンターへやってきます。私は目的の図書を書庫へ取りに行き、閲覧室に戻って手渡します。Aさんは「ありがとう」と言って席へ戻ります。

お昼になり、Aさんは恐らく食事に出掛けるのでしょうか。小一時間程度で戻り、今度は雑誌コーナーへ進んでお気に入りのタイトルを手に取ります。暫くするとお腹が膨れたのか、少したた寝タイムのようです。ふと気が付くとAさんは、入庫手続きのためにカウンターへやってきました。ほどなく雑誌を手にして書庫から出てきます。今度はその雑誌をコピーするために、文献複写申込書に記入して提出し、コピーを始めました。それが終わると雑誌をカウンターへ返却し、また自分の「指定席」に戻って勉強です。日が傾いて閉館時間が近付くと、帰宅準備を始めました。そして、いつものように「さようなら！」と言って帰って行きました。

Aさんのように、夏休み中もほとんど毎日図書館に来て勉強する人がいます。閲覧室は冷房が効いていて、図書館の使い方が熟知した人にとっては恐らくとても居心地が良いのでしょうか。私はこのような人の事を、敬意を込めて「パワーユーザー」と呼んでいます。

ふじい たつや（司書・図書館係長）